

肝臓癌の単発性肋骨転移に対する放射線治療後の早期再燃例に IMRT を用いた再照射とハイパーサーミアの併用治療が奏効した 1 例

産業医科大学 放射線科学

垣野内 祥, 大栗 隆行, 矢原 勝哉, 戸村 恭輔, 中原 惣太
板村 紘英, 興梠 征典

【目的】

放射線治療後の局所再発に対する再照射は、リスク臓器の線量制約から十分な線量投与が困難であり、放射線抵抗性の腫瘍性質から局所制御を得にくい。今回、肝臓癌の肋骨転移に対する放射線治療後、早期に再燃した病変に対して IMRT を用いた再照射とハイパーサーミアの併用治療を施行した 1 例を経験したので報告する。

【症例】

80 歳台、男性で、1 年 2 ヶ月前に肝臓癌(T2N0M0)を認め、2 度の TACE を施行した。6 ヶ月前に単発性の右肋骨転移を生じ、救済的な放射線治療(総 45Gy/15fr)を 3 次元照射で施行した。照射終了 1 ヶ月後の CT では軽度増大していた。照射終了 5 ヶ月後には、さらに増大し 8cm 大となり脊柱管に近接していた。PET/CT で肋骨病変以外に新規病変なく、救済的な局所治療のメリットが高いと判断し、IMRT を用いて再放射線治療(総 40Gy/20fr.)とハイパーサーミアの併用治療を行った。ハイパーサーミアは、1 回 50 分、週 2 回の加温を IMRT 照射直後に総 7 回施行した。再照射後 1 ヶ月の MRI で腫瘍の良好な縮小を認め、副作用の出現なく、治療終了後 6 ヶ月の CT でも縮小が維持されていた。

【結語】

肝臓癌の単発性の肋骨転移に対する放射線治療後の早期再燃病変に対して、IMRT を用いた再照射とハイパーサーミアの併用が奏効した 1 例を、文献的考察を含め報告する。